

社会への関心が低い人々の特徴

～「社会と生活に関する世論調査」から～

世論調査部(社会調査) 高橋幸市／村田ひろ子

I 社会的関心について

1. 問題意識と調査のねらい

未婚者が増え、単身世帯、特に独居老人が増えている。その一方で、地域コミュニティの崩壊が進み、個人個人を社会で支え合うことが重要な課題となっている。その中で、社会と積極的にかかわろうとしない人をどう取り込むかが課題となる。

社会参加の形態は多様化しているので、多くの活動に参加する人もいれば、特定の活動だけに参加する人もいると考えられる。そのため、社会参加の意欲を直接訊ねたのでは、意欲のある人とない人の特徴が捉えにくくなっている。

そこで、この調査では「関心」をキー概念として、関心度の低い人々の特徴を捉えることを目的に実施した。

調査は16歳以上の全国の国民を対象に、今年2月末から3月に実施し、3,600人のうち2,627人(73.0%)から回答をいただいた(詳細については、末尾の「単純集計結果」参照)。

なお、調査は3月11日に発生した東日本大震災の前に完了した。

2. 国民全体での意見分布

関心度による違いを報告する前に、国民全体では意見や態度がどのように分かれているのかについて、人間関係や対人関係を中心とした規範意識、そして、日本の現状に対する認識や評価、今後の日本のあり方などについてみておく。

(1) 「人づきあい」への態度

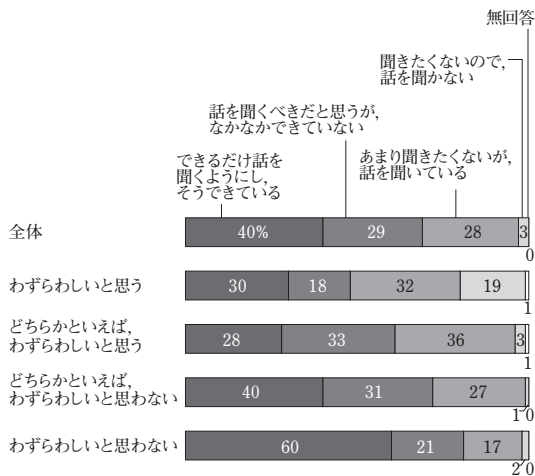
人づきあいについて国民全体では「わずらわしいと思う」人が5%、「どちらかといえば、わずらわしいと思う」人が32%で、合わせて約4割の人がわずらわしいと思っている。一方、「わずらわしいと思わない」人は23%、「どちらかといえば、わずらわしいと思わない」人は39%である。この傾向は性や職業による違いはほとんどない。

年層別にみても、「わずらわしいと思う」人はほとんど変わらない。しかし、それより弱い「どちらかといえば、わずらわしいと思う」という人は、50代までは年齢が高くなるほど増える傾向にあり、それより上の年層では少なくなる。40代、50代では「わずらわしいと思う」人を加えると、ともに40%台半ばの人が「人づきあいはわずらわしい」と思っている。

(2) 意見が異なる他者への態度

「意見が異なる人」とは「できるだけ話を聞くようにし、そうできている」という人が40%で最も多く、「あまり聞きたくないが、話を聞いている」という人も28%いる(図1)。一方、「話を聞くべきだと思うが、なかなかできていない」という人は29%であり、「聞きたくないのに、話を聞かない」という人も3%いる。合わせて約3割の人は意見が異なる人とは、うまく対応できていないと考えている。

図1 意見が異なる人への態度
＜「わずらわしいと思うか」別＞



この結果を、先ほどもみた「人づきあいはわずらわしいと思うかどうか」で分けてみると、「わずらわしいと思わない」人でも「聞きたくないのに、話を聞かない」という人が2%いるが、「わずらわしいと思う」人では19%の人が「聞きたくないのに、話を聞かない」としている。

(3) 規範について

対人関係に関する規範について、人々がどのように考えているかをみると、「弱者いじめはいけない」について、「そう思う」という人は

85%、「約束は守るべきだ」についても、「そう思う」という人は80%と、ともに多い。

そして、「困っている人を見たら、頼まれなくても助けてあげるべきだ」については、「そう思う」は36%と多くはないが、「どちらかといえば、そう思う」は56%で、合わせれば9割を超える。

また、「他人に迷惑をかけなければ、何をしようとする個人の自由だ」と考える人が23%いるが、「そうは思わない」という人は76%と多い(ともに「どちらかといえば」を含む¹⁾)。

さらに、「人と協力し合うこと」は「重要である(「非常に」+「かなり」重要である。以下同)」と考える人は、男女とも90%台半ばと圧倒的に多い。ただし、「非常に重要である」という人は女性のほうが多い。

「礼儀正しいこと」と「法律を守ること」はそれぞれ95%、94%と、これもかなり多くの人が重要と考えていて、これらについては男女で差はない。

「愛国心を持つこと」と「伝統や習慣に従うこと」については、それぞれ67%と64%の人が重要と考えているが、「非常に重要だ」という人は18%と10%で、それほど多くない。

(4) 日本の現状に対する認識と評価

今の日本で男女の違いや学歴、家柄や出身などについて、差別があると思っている人が、国民全体で半数を超える項目はなかった。

10の項目の中から、今の日本に当てはまるものをいくつでも選んでもらった結果、「貧富によって人びとの対応に差がある(49%)」「地域によって、福祉サービスや公共施設などの格差が大きい(49%)」「容姿や服装などの外見で判断する人が多い(47%)」「学歴が特に重視される社会である(47%)」「職業や社会的身分によっ

て差別する人が多い(46%)」「男女によって就業や昇進に差がある(46%)」「職業によって税制などの不公平がある(42%)」が4割を超えている。

なお、これらの中で男性と女性で意見の差があるのは、「貧富によって人びとの対応に差がある」「地域によって、福祉サービスや公共施設などの格差が大きい」「職業によって税制などの不公平がある」と、「外国人に対する差別がある」の4項目である。中でも「職業によって税制などの不公平がある」という人は男性では46%に対し、女性では39%であり、男女での認識の差が大きい。

以上のように、個別の項目では半数を超えるものはないが、「全体的にみて、今の日本の社会には差別や不平等がある」という人は42%、「どちらかといえば、あると思う」という人は50%で、大半の人が何らかの差別や不公平があると考えている。

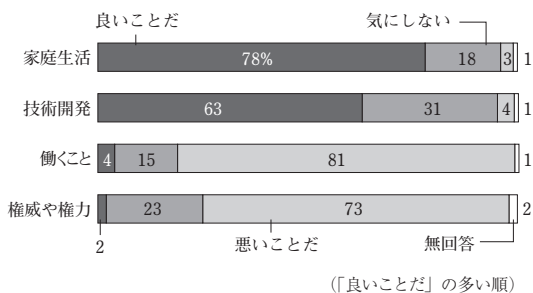
生活困窮者、つまり「生活に困っている人」がいる原因については、「社会が不公平だから」という人が39%で最も多く、ついで「社会が進歩していく過程では、そうした人が出るのは避けられない」が35%と多い。「その人たちが不運だったから」は11%であり、「その人たちがなまけ者で意志が弱いから」という個人の責任だという人は13%とそれほど多くない。

(5) 今後の日本について

次のような生活様式の変化に対しての人々の意見は図2のようになった。

- A. 働くことがあまり大切でなくなる
- B. 技術開発がより重視される
- C. 権威や権力がより重視される
- D. 家庭生活がより重視される

図2 生活様式の変化に対する態度<全体>



「家庭生活がより重視される」については、「良いことだ」という人は78%、「気にしない」という人が18%、そして「悪いことだ」という人は3%と少ない。「技術開発がより重視される」についても「良いことだ」が63%と多い。

一方、「働くことがあまり大切でなくなる」と「権威や権力がより重視される」については、「悪いことだ」という人がそれぞれ81%と73%と、かなり多い。

(6) 日本社会が進むべき方向について

社会的争点と考えられる4つの課題について、それぞれ対立する意見を提示して、どちらの意見に近い考えを持っているかを訊ねた。

まず、「環境と生活の利便性」については、「現在の生活が多少不便になっても、環境や自然を大切にする」という意見に、自分の考えが近いという人が64%と多数で、「環境や自然よりも、現在の生活の利便さを大切にする」という人は26%と少ない(ともに「どちらかといえば」を含む。以下同)。

「福祉と負担」については、「福祉を充実させるため、われわれの負担が重くなってもやむをえない」という人は過半数の54%で、「福祉が多少低下することになっても、われわれの負担は軽くしてほしい」という人は30%と少ない。

「弱い立場の人々を保護することが、もっと必要だと思う」という人は61%、「自由に競争できる社会にすることが、もっと必要だと思う」という人は20%である。

そして、「豊かな世界を実現するために、日本は積極的に外国を援助すべきである」という人は14%と少なく、「日本は外国への援助を考えるよりも、まず、国民生活の向上を優先すべきである」という人が73%とかなり多い。

なお、「これからの日本のあるべき姿としてイメージしている」ものとして、「競争と効率を重視した社会」を挙げた人は10%と少なく、「福祉を重視した社会」を挙げる人のほうが49%と多い。また「この2つ以外の社会」という人も40%いた。

(7) 社会とのかかわり方

社会とのかかわり方については、「決められたことには従い、世間に迷惑をかけないように心がけている」という人が46%で最も多く、ついで、「自分の生活とのかかわりの範囲で自分なりに考え、身近なところから世の中をよくするように心がけている」という人が34%である。

一方、「自分や家族の生活を充実させることを第一に考え、世間のことにはかかわらないよう心がけている(5%)」と、その対極にある「社会のために必要なことを考え、みんなと力を合わせ、世の中をよくするように心がけている(4%)」はともにかなり少ない。

(8) メディアの効用評価

最後に、人々と社会をつなぐメディアについての評価をみておく。

「信頼できる情報を得る」際や「趣味に関することを調べる」際に、いちばん利用しているもの

のをテレビや新聞、人との会話など以下の8つの中から1つだけ挙げてもらった。

1. ラジオ
2. テレビ
3. 新聞
4. 雑誌
5. 本
6. インターネット(メールは除く)
7. メール
8. 人との会話

9つの利用場面について訊ねたが、各場面で最も利用されているのは「テレビ」と「インターネット」、そして「人との会話」の3つだけであった。

その中で、半数以上の人利用しているものは、「自分の考えが人と違ってないか確認する」際の「人との会話(57%)」、と「世の中の出来事や動き」についての「テレビ(60%)」だけである。

「テレビ」は「信頼できる情報を得る」際や「人と共通の話題」を得る際にも最も利用されている。

そして、「趣味に関することを調べる」「気になるニュースについてさらに詳しく知る」「仕事や生活に必要な情報を入手する」際には、すべて「インターネット」が最も利用されている。さらに、「ふだん表に出ない情報を知ることができる」という評価も多い。

3. 関心度の定義とその特性

この調査では人々の社会に対する関心を多角的に捉えるために3つの質問群を使用した。その1つは久世敏雄氏を中心としたグループの研究で用いられた質問で、「身近な事象への関心・社会的事象への無関心」を測るものである²⁾。もう1つは、「社会的テーマへの関心度」を測るものであり、残る1つは、調査対象者自身が判定した「自己評価による社会関心度」である。

(1) 質問・選択肢と指標作成の手順

①社会関心スケールによる関心度

久世氏らが使用している「身近な事象への関心・社会的事象への無関心」を測る質問の中から、以下の9問を使用した。

- A. 自分のことに精一杯で、他人のことを考えるだけの余裕はない
- B. 結局、人のことは自分とは関係のないことだ
- C. 自分ひとりが努力しても世の中はよくなる
- D. ボランティア活動や奉仕活動などに興味や関心はない
- E. 社会問題は自分の生活とはまったく関係ないことだと思う
- F. 政治や社会の問題など、難しいことを考えるのはめんどうである
- G. 何事も深く考えず、その場しのぎで過ごしている
- H. 他人のことで自分の時間をとられたくない
- I. 自分が損をしてまで、皆のためにつくすのはバカげたことだ

そして、「1.非常に当てはまる、2.ある程度当てはまる、3.どれともいえない、4.あまり当てはまらない、5.まったく当てはまらない」の中からそれぞれ1つだけ選んでもらった。

学生を対象にした久世氏らの研究では11問を使用し、また、他の質問を含めた因子分析の結果から、これら11問が「身近な事象への関心・社会的事象への無関心」に対する寄与率が高いという結論を得ている。今回はその中から9問に絞ったこと、また、全国民を対象とした調査であることから、クロンバック (Cronbach) の α 係数³⁾を求めた。

その結果、0.85と高い値となり、また、どの

質問を削除した場合でも α 係数は0.82～0.84と大差はないことから、9つの質問すべてを使用して「社会関心スケール」を求めることにした。

具体的には、各質問で「当てはまらない」という人は社会的事象へ関心を示していることになるので、「4.あまり当てはまらない」または「5.まったく当てはまらない」が1つもない人を「関心低」とし、その他の人を「関心高」として2つのグループに分けた。

②社会的テーマによる関心度

「高齢者医療制度改革」や「事業仕分」など、「間接的・長期的ではあるが、多くの国民に関係する」と考えられる6つのテーマについて、「1.関心がある」から「4.関心がない」の選択肢のうちの1つをそれぞれ回答してもらった。

そして、回答の中に「1.関心がある」または「2.やや関心がある」が1つもない人を「関心低」とし、その他の人を「関心高」として2つのグループに分けた。

③自己評価による関心度

「あなたは社会の動きに、どの程度関心がありますか」と訊ね、「1.非常に関心がある、2.ある程度関心がある、3.あまり関心がない、4.まったく関心がない」の中から1つ選んでもらった。

そして、「3.あまり関心がない」または「4.まったく関心がない」と回答した人、および回答がなかった「無回答」の人を合わせて「関心低」とし、その他の人を「関心高」とした。

(2) 各指標での関心の分布

以上のように作成した指標で、社会への関心度が国民全体でどのように分布しているかを示すと、表1のようになる。

表1 各指標での関心度の分布<全体>

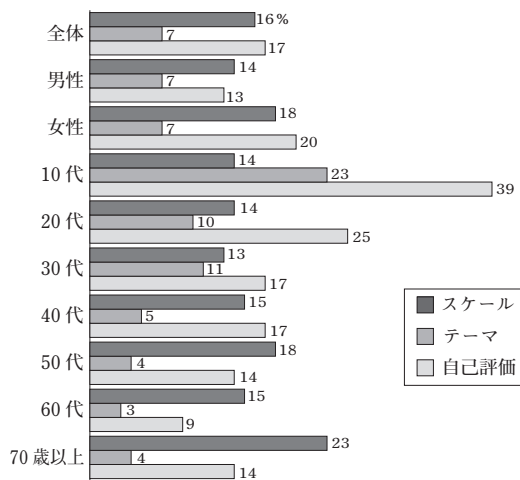
	関心度	
	低	高
①社会関心スケール	16%	84%
②社会的テーマ	7	93
③自己評価	17	83

社会的テーマによる関心度では、「低」に該当する人が7%とかなり少なく、残り2つの指標では16%と17%となった。

(3)「関心低」の属性的特徴

3つの指標における関心度「低」の人について性別、年層別の分布をみると(図3)、自己評価によるものが最もバラツキが大きい。男性と女性とでは7%の差があり、年層別でも10代では39%に上っているのに対し、最も少ない60代では9%であり、その差は30%と大きい。

図3 社会的関心度「低」の属性別分布<性、年層別>



ついで、社会的テーマによる指標のバラツキが大きい。男女では差がないものの、年層別では最も多い10代(23%)と最も少ない60代(3%)とで20%の差となっている。

スケールによる指標は、性別では4%の差があるが、年層別では最も多い70歳以上(23%)

と少ない30代(13%)とで10%の差となっていて、総合的にみればバラツキが最も小さい。

さらに、ライフステージ別では、テーマと自己評価に比べて、スケールによる指標での分布の方がバラツキが小さい。また、学歴別では自己評価による指標でバラツキが最も大きく、スケールとテーマによる指標では大きな違いはない。

そして、3つの指標とも居住している都市の規模では関心度の高低の割合に違いはない。

したがって、スケールによる指標が、性や年齢、居住地域などの属性による影響が最も少なく、関心の高低による意識の違いをみるのに、3つの中では最も適しているといえる。

(4) 生活意識との関係

ただし、他の項目についても関連がないのでは、指標として意味がない。そこで、スケールによる関心度と生活に関する意識との関係について試みる。

①生活余裕度との関係

「時間的」「経済的」「精神的」の3つの側面それぞれについて、「ゆとりのある生活を送っていますか」という質問について、「1.そう思う、2.どちらかといえば、そう思う、3.どちらかといえば、そう思わない、4.そう思わない」の中から、それぞれ1つつつ選んでもらった。そうすることにより、「そう思う」という人は余裕があり、「そう思わない」という人は余裕がないことになる。

その結果と社会的関心との関係を見ると、余裕度の低い人ほど、社会への関心が低い人が多い傾向にある(表2)。

3つの側面の中では、「精神的余裕度」との相関が最も高い。続いて「経済的余裕度」と相関が高く、「時間的余裕度」では差がない。

表2 生活余裕度との関係

		関心度	
		低	高
全体		16%	84%
精神的 余裕度	そう思う	<u>11</u>	<u>89</u>
	どちらかといえば、そう思う	<u>13</u>	<u>87</u>
	どちらかといえば、そう思わない	<u>19</u>	<u>81</u>
	そう思わない	<u>20</u>	<u>80</u>
経済的 余裕度	そう思う	11	89
	どちらかといえば、そう思う	13	88
	どちらかといえば、そう思わない	17	83
	そう思わない	19	81
時間的 余裕度	そう思う	15	85
	どちらかといえば、そう思う	15	85
	どちらかといえば、そう思わない	17	83
	そう思わない	16	84

(全体と比べて、斜体太字は有意に多いことを、下線は有意に少ないことを示す。信頼度95%。以下同)

②生活満足度との関係

生活満足度との関係では、満足派では社会的関心度の高い人が多く、満足度が下がるにつれて社会的関心度が低い人が増える。生活満足度が高い人は、余裕が生じて他者や社会への関心が高くなる。その一方で、不満があれば、その原因を他者や社会へ求め、社会への関心度が高い人もいるのではと予想していたが、そのようにはなっていない。

表3 生活満足度との関係

		関心度	
		低	高
全体		16%	84%
生活 満足度	とても満足している	<u>11</u>	<u>90</u>
	まあ満足している	<u>14</u>	<u>86</u>
	あまり満足していない	<u>20</u>	<u>80</u>
	まったく満足していない	<u>24</u>	<u>76</u>

③生活程度との関係

生活程度との関係では、自分の生活程度が世間一般の人と比べて低いと考えている人で、関心が低い傾向にある。

④AICによる比較

以上のような基本属性および生活意識と、スケールによる指標とで作成される2次元クロス表についてAIC(赤池情報量基準)を計算して

まとめたのが次の2つの表である。

計算には「CATDAP(A Categorical Data Analysis Program Package)」を用いた。ここで計算したAICには、①符号が負であれば当該変数が非独立であり、関連があることを示し、反対に正であれば独立であることを示し、②値が小さければ小さいほど(負で絶対値が大きいほど)、当該説明変数がかつ情報量が多いことを示している⁴⁾。なお、AICの計算には該当者の少ない層も含めて、全有効データを使用した。

表4 基本属性とのAIC

基本属性	AIC
性	-3.14
年層(10歳刻み)	-5.61
都市規模	1.22
ライフステージ	-8.72
学歴	-52.03

表5 生活意識とのAIC

質問番号	質問タイトル	AIC
第1問A	生活余裕度(時間的)	-4.87
第1問B	生活余裕度(経済的)	-19.58
第1問C	生活余裕度(精神的)	-24.92
第2問	生活満足度	-14.77
第3問	生活程度	-38.62

まず、基本属性との関係を見ると、学歴以外の項目は「0」に近いが、符号が正となっていてAICでみた場合には関連がほとんどないことを示している(学歴とのAICが小さく、学歴によって関心度の高低が違う可能性があることを示しているが、この点については個別の報告の際に触れる)。

ついで、生活意識との関係を見ると、こちらは「時間的余裕度」との値が「0」に近いが、その他との間ではAICが小さな値(負で絶対値が大きい値)になっているので、関心度は生活意識との関連性をうかがわせる。

以上の知見は、表2や表3で示した通常のクロス分析の知見と一致している。したがって、このあとの報告では、スケールから作成した指標を使用して分析を進める。

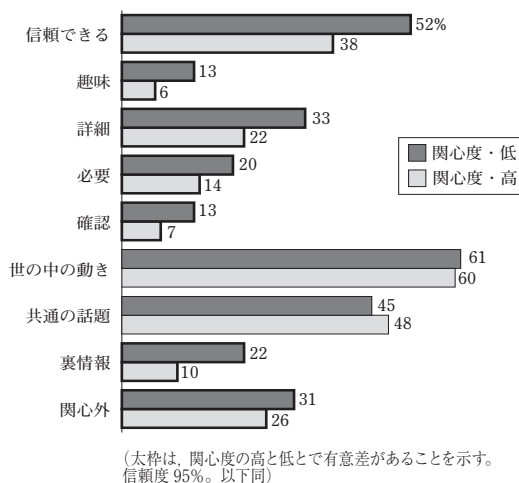
4. 関心度の高低による意見・態度の違い

(1) メディアの効用評価の違い

「信頼できる情報を得る」や「趣味に関することを調べる」などの9つの項目について、いちばん利用しているものを訊ねた「メディアの効用評価」に関する結果を、関心度の高低別にみた場合、最も意見が分かれたのは「テレビ」と「インターネット」であった。

まず、「テレビ」についてみると、「世の中の出来事や動きがわかる（世の中の動き）」と「人と共通の話題が得られる（共通の話題）」については、関心度の高低で差がないが、その他の項目についてはいずれも「低」で多い（図4）。

図4 メディア効用比較（テレビ）
＜関心度の高低別＞



中でも「信頼できる情報を得る（信頼できる）」ために最も利用しているものとして、「テレビ」を挙げた人は関心度が「高」の人では38%であるのに対し、「低」の人では過半数の52%と差が大きい。また、「ふだん表に出ない情報を知ることができる（裏情報）」についても、関心度が「高」の人は10%しかいないが「低」の人では倍以上の22%に上っている。

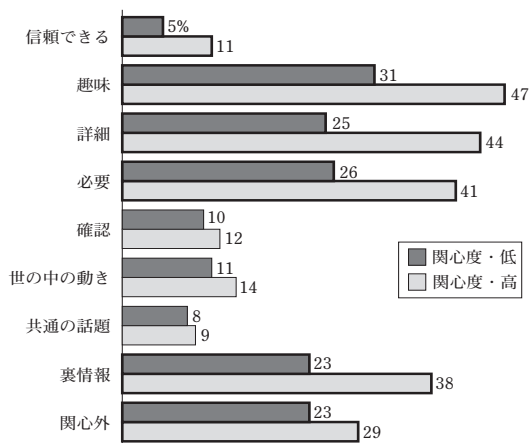
ただし、関心「低」の人を学歴で分けると、「信頼できる情報を得る」については高校より上の学歴⁵⁾の人では38%で、関心度が「高」の38%と変わらないのに対し、学歴が高校までの人では59%と多い。

また「ふだん表に出ない情報を知ることができる」についても、高校より上では11%で、これも関心度が「高」の10%と変わらないのに、高校までの人では27%と多い。

つまり、信頼できる情報を得る際や裏情報を得る際に、テレビを活用しているのは、社会的関心が低い層の中でも、学歴が高校までの人である。

「インターネット（メールを除く）」についても関心度の高低で意見が分かれたが、「テレビ」とは反対に、関心度の「低」の人でインターネットの効用を挙げる人が多い項目はない（図5）。

図5 メディア効用比較（インターネット）
＜関心度の高低別＞



そして、「趣味に関することを調べる（趣味）」と「気になるニュースについてさらに詳しく知る（詳細）」「仕事や生活に必要な情報を入手する（必要）」「ふだん表に出ない情報を知ることができる（裏情報）」では10%以上の差がある。

しかし、インターネットについても、関心度が

「低」の人の中では学歴による差が大きく、テレビよりもその差が顕著である。

つまり、関心度が「低」の人の中では、すべての事柄について、高校より上の学歴の人が高校までの人よりもインターネットを活用している。しかも、関心度が「低」で高校より上の学歴の人では、関心度が「高」の人より少ない事柄はなく、「人と共通の話題が得られる」については、関心度が「高」の人よりも多い。

以上のような差は、インターネットをどの程度利用しているかに関連していると考えられる。次の表6は、インターネットの利用頻度について、関心度の高低別をさらに学歴によって分けた結果を示したものである。

インターネットの利用頻度は、関心度の高低よりも学歴の高低によって差が大きい。つまり、「ほとんど毎日」利用している人についてみると、高校までの学歴の人では関心度が「低」の人では20%、関心度が「高」の人でも28%と少ないのに対し、高校より上の学歴の人では、関心度が「低」では43%、「高」では55%と多い。

表6 インターネットの利用頻度
＜関心度の高低 × 学歴別＞

	全体	関心度・低		関心度・高	
		高校 まで	高校 より上	高校 まで	高校 より上
ほとんど毎日	39%	20	43	28	55
週に3・4日程度	9%	5	8	8	13
週に1・2日程度	11%	10	13	10	12
月に1・2日程度	6%	5	6	6	6
ほとんど利用しない	10%	11	14	12	7
使ったことがない	24%	48	14	34	7

テレビとは違って、必要な情報を得るためには自分で検索するという能動性が求められるインターネットについては、学歴によって利用頻度が異なる。そのことが、インターネットの評価に対しても、社会への関心度の差よりも影響している。

(2) 日本の現状に対する認識と評価の違い

生活に困っている人がいる理由や差別に関する項目では、社会的関心度の高低による違いはほとんどない(表7)。

表7 日本の現状に関する項目とのAIC

質問番号	質問タイトル	AIC
第19問	生活困窮の原因	5.22
第20問.1	差別の局面(性)	-6.72
第20問.2	差別の局面(年齢や勤続年数)	1.08
第20問.3	差別の局面(学歴)	0.39
第20問.4	差別の局面(職業による不公平)	-0.85
第20問.5	差別の局面(貧富)	-5.17
第20問.6	差別の局面(外見)	-3.41
第20問.7	差別の局面(出身や家柄)	1.81
第20問.8	差別の局面(職業や社会的身分)	-0.24
第20問.9	差別の局面(地域)	-5.66
第20問.10	差別の局面(外国人)	-1.48
第20問.11	差別の局面(この中にはない)	-5.35
第21問	差別や不平等の認識	4.38
第22問	日本の現状の評価	-4.24

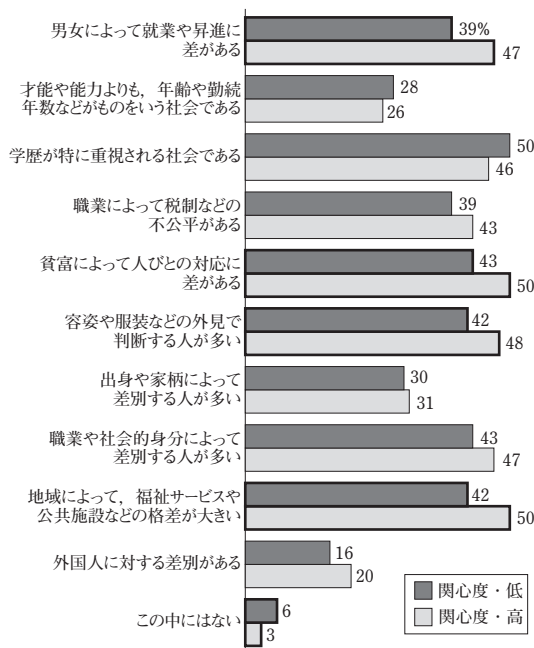
生活困窮者、つまり「生活に困っている人」がいる原因については、国民全体では「社会が不公平だから」という人が39%で最も多かったが、これらの傾向には社会的関心度の高低による差はない。ただし、関心度が「低」でしかも学歴が高校までの人では、「その人たちがなまけ者で意志が弱いから」が15%と、高校より上の人の8%よりやや多く、生活に困っているのは当人の責任だと、厳しい見方をする人が多い。

今の日本において、どのような差別が存在するかということについても、関心度の高低による違いはあまりない。

男女の違いや学歴、家柄や出身など10の項目について、前述のように国民全体では差別があるという人が半数を超える項目はなかった。そして、社会的関心度の高低によって差がある項目は、半数以下の4項目である(図6)。

その中で、AICが最も小さく、関心度の高低によって意見の差が最も大きい「男女によ

図6 差別に対する認識<関心度の高低別>



「就業や昇進に差がある」については、関心度が「高」の47%に対し、「低」では39%、また、「地域によって、福祉サービスや公共施設などの格差が大きい」についても「高」50%に対し、「低」では42%と、ともに8%の違いとなっている。

この2項目のほかに、関心度の高低で違いがあるのは「容姿や服装などの外見で判断する人が多い」と「貧富によって人びとの対応に差がある」だけであり、差別に関する意識については社会的関心度の高低による違いがあまり大きくはない。

そして、「全体的にみて、今の日本の社会には差別や不平等はあるかどうか」についても、関心度の高低では差がない。さらに、「全体的にみて、現在の日本は良い方向に向かっていると思いますか、それとも悪い方向に向かっていると思いますか」という「日本の現状の評価」についても差がない。

(3) 社会意識の違い

次に、社会的争点や課題、あるいは日本のあり方などに関する意見と関心との関係についてみていく。AICを一覧にすると、表8のようになる。

表8 社会意識に対する態度とのAIC

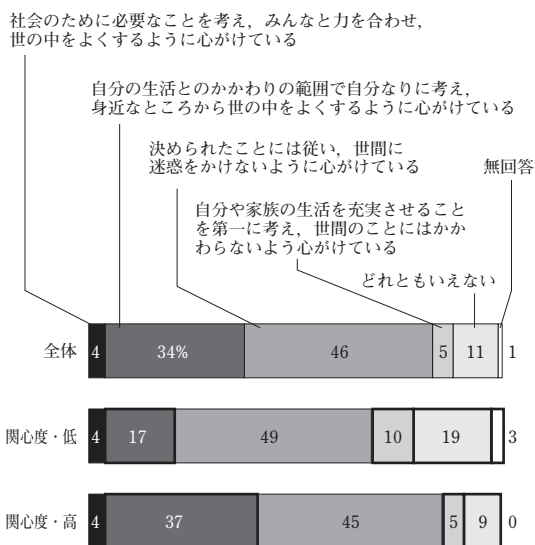
質問番号	質問タイトル	AIC
第12問A	社会規範に対する態度(弱い者いじめ)	-61.75
第12問B	社会規範に対する態度(約束)	-42.24
第12問C	社会規範に対する態度(援助)	-34.46
第12問D	社会規範に対する態度(自由)	-88.84
第14問	市民意識	-109.61
第15問A	行動規範に対する態度(権威への敬意)	-17.71
第15問B	行動規範に対する態度(協力)	-60.19
第15問C	行動規範に対する態度(勤勉)	-58.51
第15問D	行動規範に対する態度(成功)	-16.01
第15問E	行動規範に対する態度(法律遵守)	-25.73
第15問F	行動規範に対する態度(伝統・習慣)	-9.69
第15問G	行動規範に対する態度(指導者・専門家重視)	-7.19
第15問H	行動規範に対する態度(愛国心)	-18.23
第15問I	行動規範に対する態度(礼儀)	-47.79
第17問A	日本のあり方(環境か利便性か)	-40.57
第17問B	日本のあり方(福祉か負担か)	-34.11
第17問C	日本のあり方(保護か競争か)	1.74
第17問D	日本のあり方(日本か外国か)	-1.33
第18問A	生活様式の変化への態度(勤労)	-61.40
第18問B	生活様式の変化への態度(技術開発)	-44.77
第18問C	生活様式の変化への態度(権威・権力)	-86.19
第18問D	生活様式の変化への態度(家庭重視)	-30.43

①社会に対する基本的態度の違い

社会に対する基本的態度の「市民意識」についてはAICが「-109.61」と、すべての質問の中で情報量が最も多い。質問は社会とのかかわり方を訊ねるもので、国民全体では先にみたように「決められたことには従い、世間に迷惑をかけないように心がけている」という人が46%で最も多かった。

AICが最も小さいということは、関心度の「高」と「低」では回答分布が大きく異なることを示していて、具体的な分布は図7のようになっている。

図7 市民意識<関心度の高低別>



関心度による違いがないのは「社会のために必要なことを考え、みんなと力を合わせ、世の中をよくするように心がけている」という積極的な人と、「決められたことには従い、世間に迷惑をかけないように心がけている」人であり、他は関心度によって差がある。

特に「自分の生活とのかかわりの範囲で自分なりに考え、身近なところから世の中をよくするように心がけている」という人は、「高」では37%であるが「低」では17%と、20%の差となっている。

ただし、「社会のために必要なことを考え、みんなと力を合わせ」という人を加えると、「世の中をよくするように心がけている」という人は社会への関心が低い人でも約2割いる。

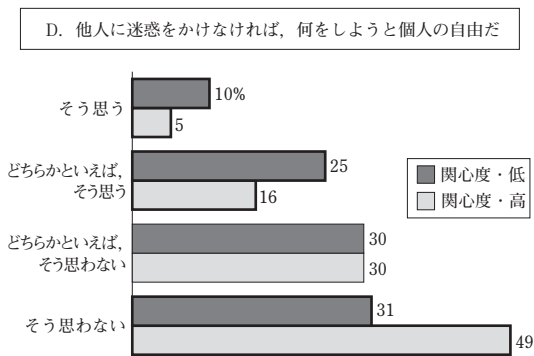
②社会規範に対する態度の違い

社会生活を送るためには、「こうしなければならない」という規範がある。判断や行動の基準となり、多くの人々が共有することによって、人々の営みや交流を円滑に進める役割を果たしている。

対人関係を中心とした社会規範に対する態度については、関心度の「高」と「低」とで態度が大きく異なる。

その中でも「D.他人に迷惑をかけなければ、何をしようとする個人の自由だ」がAICが最も小さく(-88.84)、関心度の高低で態度が異なっていることを示している。図8のように、関心度が「低」の人では「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」という人が多く、個人主義的な人が多い。

図8 社会規範に対する態度<関心度の高低別>



第12問のA～Cまでについては「そう思う」という人ほど、Dについては「そう思わない」という人ほど社会規範を守るべきだという考えが強い人ということになるが、すべての項目について、社会への関心度が高い人の方が規範を守るべきだという人が多い。

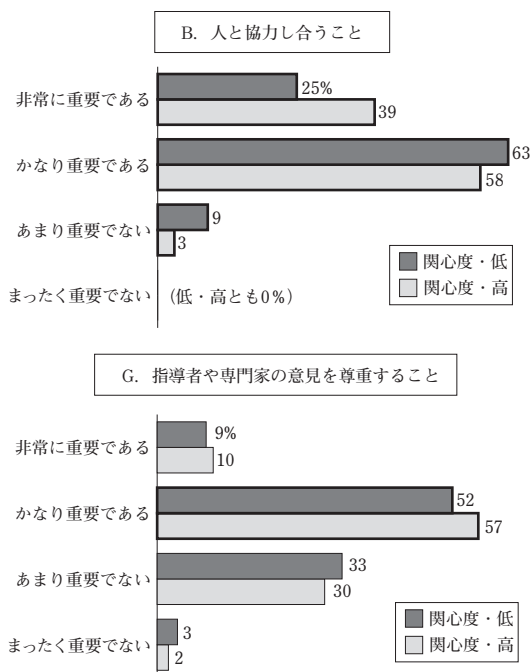
なお、「C.困っている人を見たら、頼まれなくても助けてあげるべきだ」について、「そう思う」という人は関心度が「低」の中では学歴により違いがある。つまり学歴が高校より上の人では19%であるのに対し、高校までの人では31%と、大きな差がある。

③行動規範に対する態度の違い

行動規範については、関心度の「高」と「低」とで態度に差があるものとならないものがある。

AICが最も小さい「B.人と協力し合うこと (-60.19)」と、反対に最も大きい「G.指導者や専門家の意見を尊重すること (-7.19)」について、関心度の高低別に示したのが図9である。

図9 行動規範に対する態度
＜関心度の高低別＞



関心度が低い人では「人と協力し合うこと」は「非常に重要である」という人が少ないなど、関心度によって差があるが、「指導者や専門家の意見を尊重」については、大きな差はない。

なお、高校より上の学歴の人では、これらの規範を重視する人が特に少ない。つまり、「D.仕事で成功すること、F.伝統や習慣に従うこと、G.指導者や専門家の意見を尊重すること、H.愛国心を持つこと」について「非常に重要である」という人はすべて10%未満と少ない。

④日本のあり方に対する意見の違い

日本のあり方について訊ねた結果では、

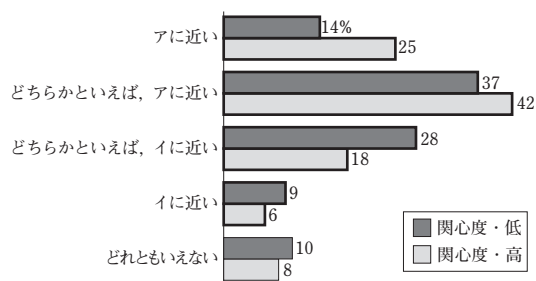
「環境か利便性か」「福祉か負担か」については、関心度の高低で意見に差があるが、「保護か競争か」「日本か外国か」については差がない。

図10にはAICが小さい(-40.57)「環境か利便性か」について示した。

関心度が「低」の人では「現在の生活が多少不便になっても、環境や自然を大切にする」という人が少ない。そして、この項目については、学歴による違いはない。

図10 日本のあり方に対する意見
＜関心度の高低別＞

ア：現在の生活が多少不便になっても、環境や自然を大切にする
イ：環境や自然よりも、現在の生活の利便さを大切にする



同様にAICが「-34.11」である「福祉か負担か」については、「福祉を充実させるため、われわれの負担が重くなってもやむをえない」という人が「低」で少ない。そして、高校までの学歴の人では「どちらかといえば、負担を軽くしてほしい」という人が多いのに対し、それより上の学歴の人では「どちらともいえない」と態度を保留する人が多い。

なお、「保護か競争か」については、高校までの学歴の人では「そう思う」、つまり、「弱い立場の人々を保護することが、もっと必要だ」という人が多く、それより上の学歴の人では少ない。

このように、自分に直接関係する事柄では、関心度の高低によって意見の差がある。

II 20, 30代の社会意識に対する態度

これまで、社会への関心度による違いをみてきたが、ここからは分析の視点を変えて、若い人たちの規範意識や社会的争点に対する態度等、社会意識についての特徴を報告する。

若年層を分析軸に据えるのは、彼らの社会に対する態度が、日本社会の未来像を推測するための手がかりとなり得るためである。なお、10代については、9割近くが生徒・学生であり、実社会に出て働いている人が多い20代以上とは生活実態が異なると考えられるため、検討の対象から除いた。

分析は、20, 30代の若い人々と、それより上の年層とで意見や態度に違いがあるのかどうかを中心に行ったが、参考のため、20代と30代との比較の結果も示した(表9)。

1. 20, 30代と40代以上で差の大きい項目

(1) 特に差の大きい項目

選挙を棄権することについては、「そうは(良くないことだとは)思わない」という容認派が低年層ほど多い。そして、表9に示した項目の中では、20, 30代と40代以上とで特に差が大きい。20, 30代では、棄権を容認する人が過半数であり、40代以上と比べてともに20%以上の差がある。

また、「愛国心を持つこと」を重視する人は、低年層ほど少ない。20, 30代では、「重要(非常に+かなり)」と考える人が半数を超えているものの、40代以上よりそれぞれ17%, 16%少ない。

(2) 差が10%程度の項目

このほか、20, 30代の若い人々とそれより上の年層とで、ともに10%程度差のある項目をみていく。投票が国民の「義務」か「権利」かを

訊ねた結果では、低年層ほど「義務」と考える人が少ない。表9に示したように、20, 30代では「義務」と考える人が4割程度にとどまり、40代以上とではそれぞれ13%, 10%の差がある。

生活様式の変化については、「働くことがあまり大切でなくなる」ことに対して、低年層ほど「気にしない」という脱伝統的な人が多い傾向がある。20, 30代では「気にしない」が20%前後だが、40代以上よりそれぞれ10%程度多い。つまり、20, 30代では、勤労という価値観が低下することを気にしていない人が相対的に多いが、その一方「仕事で成功すること」を重視する人がそれぞれ70%程度と多く、40代以上より10%前後多い。

「技術開発がより重視される」ことに対して、低年層ほど「気にしない」人が多い傾向がある。20, 30代では、「気にしない」人が40%前後で、40代以上よりそれぞれ14%, 8%多い。

日本のあり方について「保護か競争か」を訊ねた結果では、低年層ほど「弱い立場の人々の保護が必要」と考える人が少ない傾向がある。20, 30代では、弱者の保護派が半数を超えているものの、40代以上よりそれぞれ10%程度少ない。

2. 20代で特徴的な社会意識に対する態度

若い人々をさらにしぼり込んで、20代の特徴に注目する。20代では、他の年層より「他人に迷惑をかけなければ何をしようとする個人の自由だ」と考える個人主義的な人が際立って多い(図11)。表9に示したとおり、30代とは13%, 40代以上とは17%もの差がある。

「第8回 世界青年意識調査」(内閣府 2007-2008)によれば、日本の若者(18~24歳)では「個人の自由だ」と考える個人主義的な人が

表9 社会意識の違い<年層別> (%)

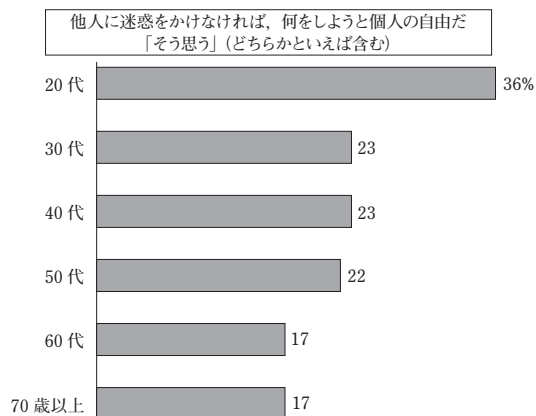
質問番号	質問	全体	20代	20代 vs 30代	30代	40代以上	40代以上 20代	40代以上 30代	
第12問A	社会規範に対する態度 (「そう思う」(どちらかといえば含む))	弱い者いじめはいけない	98	96▼		99	98	2	0
第12問B		約束は守るべきだ	99	98		99	99	0	-1
第12問C		困っている人を見たら、頼まれなくても助けてあげるべきだ	92	91		93	92	1	-1
第12問D		他人に迷惑をかけなければ、何をしようと個人の自由だ	23	36△	>	23	20	-17	-3
第15問A	行動規範に対する態度 (「重要」(非常に+かなり))	権威ある人々に敬意を払うこと	40	52△	>	40	36	-16	-4
第15問B		人と協力し合うこと	96	98		95	95	-3	0
第15問C		勤勉であること	80	76▼		80	82	5	2
第15問D		仕事で成功すること	66	71△		70△	62	-9	-8
第15問E		法律を守ること	94	91▼		92	94	4	2
第15問F		伝統や習慣に従うこと	64	55▼	<	63	65	10	2
第15問G		指導者や専門家の意見を尊重すること	66	63		62	67	4	5
第15問H		愛国心を持つこと	67	54▼		56▼	71	17	16
第15問I		礼儀正しいこと	95	95		96	95	0	-1
第17問A	環境か利便性か (どちらかといえば含む)	環境や自然を大切にする	64	59▼		64	66	7	2
		生活の利便さを大切にする	26	31△		27	25	-7	-2
		どれもいえない	9	9		9	8	-1	-1
		無回答	1	0		1	1	1	1
第17問B	福祉か負担か (どちらかといえば含む)	負担が重くなってもやむをえない	54	55		50▼	55	0	5
		負担は軽くしてほしい	30	28		32	30	1	-2
		どれもいえない	16	17		18△	14	-3	-4
		無回答	1	0		0	1	1	1
第17問C	保護か競争か (どちらかといえば含む)	弱い立場の人々の保護が必要	61	54▼		55▼	64	10	9
		自由に競争できる社会が必要	20	28△		23△	18	-9	-5
		どれもいえない	17	18		21△	16	-2	-5
		無回答	1	0		0	1	1	1
第17問D	日本か外国か (どちらかといえば含む)	外国を援助すべき	14	12		11▼	15	3	4
		国民生活の向上を優先すべき	73	73		75	73	0	-3
		どれもいえない	12	14		13	11	-3	-2
		無回答	1	0		0	1	1	1
第18問A	働くことがあまり大切でなくなる	良いことだ	4	8△		5△	3	-5	-3
		気にしない	15	22△		21△	12	-11	-9
		悪いことだ	81	70▼		74▼	85	14	10
		無回答	1	0▼		0▼	2	2	2
第18問B	生活様式の変化への態度 技術開発がより重視される	良いことだ	63	55▼		61▼	66	11	6
		気にしない	31	42△		36△	28	-14	-8
		悪いことだ	4	2		4	4	2	1
		無回答	1	1		0▼	2	1	2
第18問C	権威や権力がより重視される	良いことだ	2	2		2	3	0	1
		気にしない	23	24		23	22	-2	-1
		悪いことだ	73	73		76	73	0	-2
		無回答	2	1		0▼	2	1	2
第18問D	家庭生活がより重視される	良いことだ	78	79		81	78	-1	-3
		気にしない	18	21		18	17	-4	-1
		悪いことだ	3	1▼		1▼	3	3	3
		無回答	1	0▼		0▼	2	2	2
第27問	選挙権について	投票は国民の義務である	47	38▼		41▼	51	13	10
		投票は国民の権利である	52	62△		60△	48	-14	-11
		無回答	1	1		0▼	1	0	1
第28問	選挙での棄権について	良くないことだ	64	48▼		49▼	70	22	21
		そうは思わない	36	52△		51△	29	-23	-22
		無回答	1	0		0	1	1	1
第29問	政治への態度	政治は政治家や専門家にまかせておけばよい	13	13		9▼	14	1	5
		そうは思わない	87	87		91△	86	-1	-5
		無回答	1	0		0	1	0	1

・表中の△▼は、20、30代と40代以上を比較した検定結果(信頼度95%)であり、20代または30代が高ければ「△」で、低ければ「▼」で示した。
 ・表中の不等号(><)は、20代と30代を比較した検定結果(信頼度95%)であり、20代が高ければ「>」で、低ければ「<」で示した。
 ・右端の20、30代と40代以上の差は、小数点以下第2位を四捨五入した集計結果を用いて算出しているが、表中では、小数点以下第1位を四捨五入した整数で示している。

■ 40代以上と、20・30代の差が20%以上
 ■ 40代以上と、20・30代の差が10%以上

30%で、フランス(93%)、イギリス(91%)、アメリカ(81%)、韓国(67%)の同年層よりかなり少ない。今のところ日本と各国の差は大きいですが、今後日本でもこうした考えに共感する人が増えていく可能性はある。

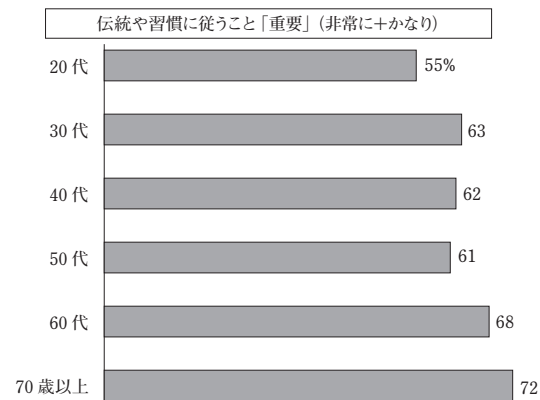
図 11 社会規範に対する態度<年層別>



20代に多い個人主義的な態度は、生活様式の変化に対する考え方にも一部表れている。20代では、環境の保護よりも「生活の便利さを大切に」という人が31%となっていて、30代とは差がないが、40代以上より7%多い。

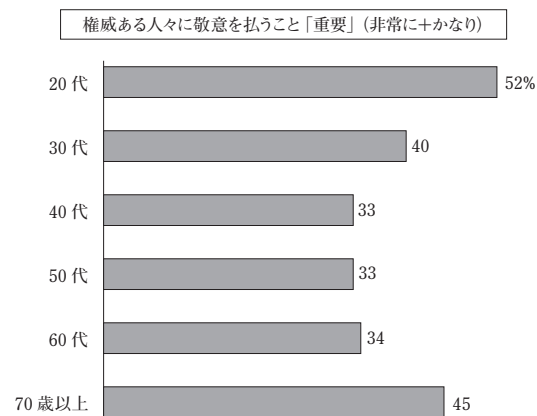
また、20代では「伝統や習慣に従うこと」を重視する人が他の年層より少ない(図12)。表9でまとめたように、30代とは8%、40代以上とは10%の差がある。

図 12 行動規範に対する態度<年層別>



その一方、20代では「権威ある人々に敬意を払うこと」を重視する伝統的な人が52%と半数を超え、ほかの年層より多くなっている(図13)。表9に示したとおり、30代より12%、40代以上より16%多い。

図 13 行動規範に対する態度<年層別>



3. 若年層の社会意識についての考察

ここまで20、30代と40代以上で差が大きい項目についてみてきたが、逆に年層差がみられないのは、「約束は守るべきだ」「困っている人を見たら、頼まれなくても助けてあげるべきだ」「人と協力し合うこと」「礼儀正しいこと」など、人と人との関係に関する規範意識で多い。

一方、年層差が大きい「選挙での棄権の是非」「愛国心を持つこと」等は、国家や政治という枠組みの中での規範であり、若年層にとって抵抗を感じるものなのかもしれない。また、若年層では、これまで社会の発展を支えてきた勤労や技術をそれほど重視しない傾向もみられる。

社会意識は、経済・社会的状況の反映であり、特に若者については、時々の経済・社会状況がその意識に反映されやすいと言われている(山田 2004)⁶⁾。現在、20、30代の多くは、厳しい社会情勢のもと、就職難や雇用

の不安定、格差問題に直面していて、社会的な制度は信用に値せず、自分自身しか頼りにできないことを敏感に感じ取っている可能性がある。こうした若者にとって、社会的な制度に基づく規範意識や価値観を継承していくことは、それほど重要なことではないのかもしれない。

Ⅲ まとめ

この調査は、社会への関心が低い人々の特徴を捉えることを目的に実施した。

まず、関心の高低と生活意識との関係から、精神的に余裕のある人ほど社会に対する関心が高いこと、また、生活について満足している人ほど関心が高く、不満があっても社会へ目を向けるわけではないことが明らかになった。

そして、生活困窮者が生まれる原因や、差別や不平等の認識、あるいは、日本が良い方向に向かっているか悪い方向に向かっているかの認識について、関心度の高低では大きな差はないことが明らかになった。

さらに、社会的関心が低い人では、他人に迷惑をかけなければ、何をしようと個人の自由だと考える人が多く、また、人と協力し合うことが重要という人も少ない。

社会との関係については、「自分の生活とのかかわりの範囲で自分なりに考え、身近なところから世の中をよくするように心がけている」人は、関心が高い人では多い。それに比べれば、関心が低い人では少ないが、約2割の人が「世の中をよくするように心がけている」。

また、社会に対する関心が低い人では「信頼できる情報を得る」際や「ふだん表に出ない情報を知る」際など、いろいろな面でテレビを利

用している人が多い。一方、インターネットを活用している人は少ない。

ただし、同じように社会的関心の低い人でも、高校より上の学歴の人ではインターネットを活用している人が多く、高校までの学歴の人ではテレビを活用している人が多い。

また、20、30代の若い人々の特徴を分析した結果では、人と人との関係に関する規範については他の年層とほとんど変わらない考えをもっているが、社会的な制度に基づく価値観はあまり重要視していないことが明らかになった。

(たかはし こういち / むらた ひろこ)

注：

- 1) 回答結果をたし上げる場合には、実数でたして%を計算しているため、%をたし上げたものと一致しないことがある。
- 2) 久世敏雄ほか「現代青年の規範意識と私生活主義について」『名古屋大学教育学部紀要・教育心理学科, Vol.35』, pp21-28, 1988年
和田実・久世敏雄「現代青年の規範意識と私生活主義」『名古屋大学教育学部紀要・教育心理学科, Vol.37』, pp23-30, 1990年
- 3) クロンバック (Cronbach) の α 係数
尺度を構成している項目が、その尺度をねらいとしている機能を、相互に矛盾することなく果たしているかをみる係数。 α 係数が高いほど、相互に矛盾がないことを示していて、「0.8」以上が望ましいとされている。
- 4) 坂元慶行『カテゴリカルデータのモデル分析』, 共立出版株式会社, 1985年。なお、「CATDAP」は統計数理研究所から提供された。
- 5) 第39問の学歴に関する質問で、「1, 2」を「高校まで」、「3, 4」を「高校より上」、「5~8」を「その他」とした。その結果、関心度が「低」の422人のうち、「高校まで」は287人、「高校より上」は106人となった。
- 6) 山田昌弘『希望格差社会』, 筑摩書房, 2004年

「社会と生活に関する世論調査」単純集計結果

【調査の概要】

- 1 調査目的 人々の社会に対する関心を多角的にとらえ、関心度の低い人びとの特徴を明らかにするとともに、社会とどのように関わろうとしているのかを探る。
- 2 調査時期 2011年2月26日(土)～3月6日(日)
- 3 調査方法 配付回収法
- 4 調査対象 全国の16歳以上の国民
- 5 調査相手 住民基本台帳から層化無作為2段抽出
3,600人(12人×300地点)
- 6 調査有効数(率) 2,627人(73.0%)

一生活余裕度一

第1問 あなたは、日ごろ、ゆとりのある生活を送っていますか。それとも、そうではありませんか。次のA～Cのそれぞれについて、当てはまるものに1つずつ○をつけてください。

	1. そう思う	2. どちらかといえば	3. そう思わない	4. そう思わない	5. 無回答
(%)					
A. 時間的にゆとりのある生活を送っている	22.1	34.9	26.2	15.7	1.1
B. 経済的にゆとりのある生活を送っている	6.5	32.4	34.7	24.4	2.0
C. 精神的にゆとりのある生活を送っている	10.8	41.5	30.5	15.2	2.0

一生活満足度一

- 第2問 あなたは、今の生活に、全体としてどの程度満足していますか。次の中から1つだけ○をつけてください。
- 1. とても満足している 6.9 %
 - 2. まあ満足している 57.1
 - 3. あまり満足していない 29.9
 - 4. まったく満足していない 5.9
 - 5. 無回答 0.1

一生活程度一

- 第3問 あなたの生活程度は、世間一般の人と比べて、次のように分けることすれば、どれに入るとお考えですか。次の中から1つだけ○をつけてください。
- 1. 上 1.5 %
 - 2. 中の上 28.7
 - 3. 中の下 45.5
 - 4. 下の上 19.2
 - 5. 下の下 4.8
 - 6. 無回答 0.3

一在宅・外出傾向一

- 第4問 あなたは、休みの日など、自分で自由に使える時間に、家で過ごすのが好きなほうですか。それとも外に出かけるのが好きなほうですか。次の中から1つだけ○をつけてください。
- 1. 家で過ごすのが好きなほう 14.3 %
 - 2. どちらかといえば、家で過ごすのが好きなほう 36.4
 - 3. どちらかといえば、外に出かけるのが好きなほう 37.7
 - 4. 外に出かけるのが好きなほう 11.4
 - 5. 無回答 0.3

一友人の数一

第5問 友人についておたずねします。次のA、Bそれぞれについて、当てはまるものに○をつけてください。

- A. あなたが、日ごろ親しくしている友人は何人くらいいますか。
- 1. 1～3人 37.5 %
 - 2. 4～6人 34.8
 - 3. 7～9人 7.9
 - 4. 10人以上 12.3
 - 5. いない 7.2
 - 6. 無回答 0.2

[Aで「1～4(友人がいる)」の方に]

- B. その中で、SNSやメールだけのつきあいで、実際には会ったことがない人は何人ですか。
- 1. 1～3人 6.5 %
 - 2. 4～6人 1.3
 - 3. 7～9人 0.2
 - 4. 10人以上 0.4
 - 5. いない 80.4
 - 6. 無回答 3.8
 - 7. 非該当[Aで「5、6」の人] 7.4

一親密な交際の広がり(MA)一

- 第6問 あなたは、最近1年間に、誰かを自宅に招いたことがありますか。次の中で当てはまる人すべてに○をつけてください。
- 1. 親せきの人 56.8 %
 - 2. 職場や仕事関係の人 16.6
 - 3. 通っている学校の友人や先生など 5.3
 - 4. 同じサークルや団体に加入している人 8.8
 - 5. 学校時代の友人 19.8
 - 6. 近所の人 23.6
 - 7. その他の友人や知人 31.1
 - 8. 誰も招いたことがない 19.2
 - 9. 無回答 0.3

一人間関係についての態度一

第7問 職場の同僚や隣近所の人とは、どのようなつきあい方が望ましいと思いますか。実際にどのようにしているかは別にして、ご希望に近いものに、A、Bそれぞれ1つだけ○をつけてください。

- A. 職場の同僚とは、どんなつきあいをするのが望ましいと思いますか。
- 1. 仕事に直接関係する範囲のつきあい 29.0 %
 - 2. 仕事が終わってからも、話し合ったり遊んだりするつきあい 40.8
 - 3. なにかにつけ相談したり、たすけ合えるようなつきあい 23.9
 - 4. その他 3.4
 - 5. 無回答 2.9

- B. 隣近所の人とは、どんなつきあいをするのが望ましいと思いますか。
1. 会ったときに、あいさつする程度のつきあい … 26.8 %
 2. あまり堅苦しくなく話し合えるようなつきあい … 54.4
 3. なにかにつけ相談したり、たすけ合えるようなつきあい … 18.2
 4. その他 … 0.5
 5. 無回答 … 0.1

—人間関係についての満足度—

第8問 次のA～Cのそれぞれについて、あなたの気持ちにいちばん近いものを選んで、それぞれ1つだけ○をつけてください。

- A. 職場の同僚や学校の友だちとの人間関係に、満足していますか。満足していませんか。
1. 満足している … 19.5 %
 2. どちらかといえば、満足している … 54.7
 3. どちらかといえば、不満である … 10.7
 4. 不満である … 2.1
 5. つきあいはない … 9.6
 6. 無回答 … 3.4
- B. 次に、隣近所の人たちとの関係については、どうでしょうか。
1. 満足している … 15.4 %
 2. どちらかといえば、満足している … 56.2
 3. どちらかといえば、不満である … 10.7
 4. 不満である … 1.6
 5. つきあいはない … 15.9
 6. 無回答 … 0.2
- C. 家族との関係については、どうでしょうか。
1. 満足している … 49.3 %
 2. どちらかといえば、満足している … 40.0
 3. どちらかといえば、不満である … 7.0
 4. 不満である … 2.0
 5. 家族はいない … 1.5
 6. 無回答 … 0.2

—意見が異なる人への態度—

第9問 あなたは意見や立場が違う人とどのように接していますか。次の中から最も当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. できるだけ話を聞くようにし、そうできている … 40.2 %
2. 話を聞くべきだと思うが、なかなかできていない … 28.9
3. あまり聞きたくないが、話を聞いている … 27.8
4. 聞きたくないのに、話を聞かない … 2.7
5. 無回答 … 0.4

—人づきあいはわずらわしいか—

第10問 あなたは「人づきあいは、わずらわしい」と思いますか。それともそうは思いませんか。

1. わずらわしいと思う … 4.8 %
2. どちらかといえば、わずらわしいと思う … 32.4
3. どちらかといえば、わずらわしいと思わない … 39.4
4. わずらわしいと思わない … 23.4
5. 無回答 … 0.2

—一般的信頼尺度—

第11問 次のA～Fのそれぞれについて、あなたのお考えはどの程度当てはまりますか。「そう思う」から「そう思わない」の中から1つ選んで○をつけてください。

	1. そう 思う	2. ど ち ら か と い え ば	3. ど ち ら か と い え ば	4. そ う 思 わ な い	5. 無 回 答
A. ほとんどの人は基本的に正直である	10.5	49.9	29.5	8.9	1.1
B. ほとんどの人は信頼できる	4.9	44.3	38.3	11.3	1.1
C. ほとんどの人は基本的に善良で親切である	7.3	53.6	30.3	7.3	1.5
D. ほとんどの人は他人を信頼している	3.5	35.2	46.4	13.1	1.9
E. たいていの人は人から信頼された場合、同じようにその相手を信頼する	19.8	56.0	19.4	3.7	1.1
F. 私は人を信頼するほうである	17.1	58.2	19.2	4.6	1.0

—社会規範に対する態度—

第12問 あなたは、次のA～Dについて、どう思いますか。「そう思う」から「そう思わない」の中で、あなたのお気持ちに近いものに○をつけてください。

	1. そ う 思 う	2. ど ち ら か と い え ば	3. ど ち ら か と い え ば	4. そ う 思 わ な い	5. 無 回 答
A. 弱い者いじめはいけな	85.2	12.9	0.8	0.4	0.7
B. 約束は守るべきだ	79.6	19.1	0.4	0.2	0.7
C. 困っている人を見たら、頼まれなくても助けてあげるべきだ	35.9	56.3	6.1	1.1	0.7
D. 他人に迷惑をかけなければ、何をしようと個人の自由だ	6.1	17.1	29.6	46.3	0.9

—社会関心スケール—

第13問 次のA～Iのそれぞれについて、あなたのお考えはどの程度当てはまりますか。「非常に当てはまる」から「まったく当てはまらない」の中から1つ選んで○をつけてください。

(%)	1. 非常に当てはまる	2. ある程度当てはまる	3. どれともいえない	4. あまり当てはまらない	5. まったく当てはまらない	6. 無回答
A. 自分のことに精一杯で、他人のことを考えるだけの余裕はない	7.3	27.9	32.9	26.3	4.8	0.8
B. 結局、人のことは自分とは関係のないことだ	3.3	17.8	38.1	29.7	9.9	1.1
C. 自分ひとりが努力しても世の中はよくならない	17.2	30.1	29.5	16.6	5.7	0.9
D. ボランティア活動や奉仕活動などに興味や関心はない	5.5	18.6	36.5	27.3	11.0	1.1
E. 社会問題は自分の生活とはまったく関係ないことだと思う	2.6	10.4	23.5	36.2	26.1	1.3
F. 政治や社会の問題など、難しいことを考えるのはめんどろである	5.7	17.1	28.0	31.4	16.6	1.1
G. 何事も深く考えず、その場しのぎで過ごしている	3.0	15.6	28.7	34.6	16.6	1.4
H. 他人のことで自分の時間をとられたくない	6.4	20.8	34.6	28.2	8.6	1.3
I. 自分が損をしてまで、皆のためにつづけるのはバカげたことだ	4.6	14.7	37.2	30.5	11.9	1.1

—市民意識—

第14問 あなたの今の生き方について、次の中から最も近いものに1つだけ○をつけてください。

- 社会のために必要なことを考え、みんなと力を合わせ、世の中をよくするように心がけている ……4.1 %
- 自分の生活とのかかわりの範囲で自分なりに考え、身近なところから世の中をよくするように心がけている ……33.7
- 決められたことには従い、世間に迷惑をかけないように心がけている ……45.6
- 自分や家族の生活を充実させることを第一に考え、世間のことにはかかわらないように心がけている ……5.4
- どれともいえない ……10.5
- 無回答 ……0.6

—行動規範に対する態度—

第15問 次にあげた事柄はあなたにとってどれくらい重要ですか。A～Iのそれぞれについて、当てはまるものに○をつけてください。

(%)	1. 非常に重要である	2. かなり重要である	3. あまり重要でない	4. まったく重要でない	5. 無回答
A. 権威ある人々に敬意を払うこと	7.5	32.2	50.9	7.4	2.1
B. 人と協力し合うこと	36.8	58.7	3.7	0.0	0.8
C. 勤勉であること	22.3	58.2	17.3	0.8	1.4
D. 仕事で成功すること	15.0	50.8	30.3	2.2	1.6
E. 法律を守ること	47.0	46.6	5.1	0.4	1.0
F. 伝統や習慣に従うこと	10.0	53.7	33.3	1.6	1.5
G. 指導者や専門家の意見を尊重すること	9.6	56.6	30.7	1.7	1.4
H. 愛国心を持つこと	18.3	48.2	28.7	3.3	1.6
I. 礼儀正しいこと	46.4	48.6	4.0	0.1	0.9

—社会的テーマへの関心度—

第16問 次に示したA～Fの事柄について、あなたはどの程度興味や関心をお持ちですか。A～Fのそれぞれについて、1つだけ○をつけてください。

(%)	1. 関心がある	2. やや関心がある	3. やや関心がない	4. 関心がない	5. 無回答
A. 高齢者医療制度改革	45.9	37.2	11.6	4.7	0.6
B. 改正臓器移植法	20.5	44.5	25.4	8.6	1.1
C. 生物多様性	11.7	30.6	37.5	17.7	2.4
D. ゼロ金利政策	20.6	39.6	27.0	11.2	1.6
E. 事業仕分	21.2	38.9	24.6	14.0	1.3
F. iPS細胞	14.5	27.3	31.3	24.1	2.7

—日本のあり方—

第17問 次のA～Dには、アとイのそれぞれ対立する意見を示してあります。あなたのお考えはどちらに近いでしょう。それぞれ1つだけ○をつけてください。

- A
- ア：現在の生活が多少不便になっても、環境や自然を大切ににする
 - イ：環境や自然よりも、現在の生活の便利さを大切ににする
- アに近い ……23.0 %
 - どちらかといえば、アに近い ……41.1
 - どちらかといえば、イに近い ……19.9
 - イに近い ……6.2
 - どれともいえない ……8.6
 - 無回答 ……1.1
- B
- ア：福祉を充実させるため、われわれの負担が重くなってもやむをえない
 - イ：福祉が多少低下することになっても、われわれの負担は軽くしてほしい
- アに近い ……13.1 %
 - どちらかといえば、アに近い ……40.4

3. どちらかといえば、イに近い 21.4
4. イに近い 8.5
5. どれともいえない 15.7
6. 無回答 1.0

C ア：弱い立場の人々を保護することが、もっと必要だと思う
 イ：自由に競争できる社会にすることが、もっと必要だと思う

1. アに近い 17.4 %
2. どちらかといえば、アに近い 44.0
3. どちらかといえば、イに近い 15.5
4. イに近い 4.9
5. どれともいえない 17.2
6. 無回答 0.9

D ア：豊かな世界を実現するために、日本は積極的に外国を援助すべきである
 イ：日本は外国への援助を考えるよりも、まず、国民生活の向上を優先すべきである

1. アに近い 3.0 %
2. どちらかといえば、アに近い 11.3
3. どちらかといえば、イに近い 40.2
4. イに近い 33.0
5. どれともいえない 11.6
6. 無回答 0.8

一生活様式の変化への態度一

第18問 次のいろいろな生活様式の変化があげてあります。もし、こういうことが起こった場合、あなたはご想像ですか。「良いことだ」と思いますが、「悪いことだ」と思いますが、それとも、こういうことが起こっても気にしませんか。A～Dのそれぞれについて、当てはまるものに○をつけてください。

	1. 良いことだ	2. 気にしない	3. 悪いことだ	4. 無回答
(%)				
A. 働くことがあまり大切でなくなる	3.5	14.8	80.6	1.1
B. 技術開発がより重視される	63.1	31.4	4.2	1.4
C. 権威や権力がより重視される	2.4	22.6	73.4	1.5
D. 家庭生活がより重視される	78.0	18.1	2.6	1.3

一生活困窮の原因一

第19問 あなたのお考えでは、生活に困っている人がいるのはどのような理由によるものだと思いますか。次の中から、あなたのお考えに近いものに○をつけてください。

1. その人たちが不運だったから 10.7 %
2. その人たちがなまけ者で意志が弱いから 13.2
3. 社会が不公平だから 38.8
4. 社会が進歩していく過程では、そうした人が出るのは避けられない 35.3
5. 無回答 2.1

一差別の局面 (MA) 一

第20問 次の中で、今の日本の社会について、当てはまると思うものがありますか。ありましたら、いくつでも○をつけてください。

1. 男女によって就業や昇進に差がある 45.9 %
2. 才能や能力よりも、年齢や勤続年数などがものをいう社会である 26.5
3. 学歴が特に重視される社会である 46.9
4. 職業によって税制などの不公平がある 42.3

5. 貧富によって人びとの対応に差がある 48.6
6. 容姿や服装などの外見で判断する人が多い 46.6
7. 出身や家柄によって差別する人が多い 30.8
8. 職業や社会的身分によって差別する人が多い 46.2
9. 地域によって、福祉サービスや公共施設などの格差が大きい 48.6
10. 外国人に対する差別がある 19.3
11. この中にはない 3.3
12. 無回答 0.6

一差別や不平等の認識一

第21問 全体的にみて、今の日本の社会には差別や不平等はあると思いますか。次の中から1つだけ○をつけてください。

1. あると思う 41.5 %
2. どちらかといえば、あると思う 49.6
3. どちらかといえば、ないと思う 7.5
4. ないと思う 0.9
5. 無回答 0.5

一日本の現状の評価一

第22問 全体的にみて、現在の日本は良い方向に向かっていると思いますか、それとも悪い方向に向かっていると思いますか。

1. 良い方向に向かっている 12.9 %
2. 悪い方向に向かっている 86.1
3. 無回答 1.0

一日本のあるべき姿一

第23問 これからの日本のあるべき姿として、あなたのイメージに最も近いものはどれですか。

1. 競争と効率を重視した社会 10.3 %
2. 福祉を重視した社会 48.9
3. 上の2つ以外の社会 39.7
4. 無回答 1.2

一組織への信頼度一

第24問 あなたは、次のA～Hについて、どの程度信頼していますか。当てはまるものに1つずつ○をつけてください。

	1. 信頼している	2. どちらかといえる	3. 信頼してはいない	4. 信頼してはいない	5. 無回答
(%)					
A. 国会	1.1	14.2	44.7	39.1	1.0
B. 政府	1.2	13.7	44.7	39.2	1.1
C. 裁判所	10.2	57.4	22.3	8.9	1.3
D. 警察	8.1	54.5	26.3	10.0	1.0
E. テレビ局	4.5	41.8	36.6	16.2	1.0
F. 新聞社	6.7	56.9	25.4	9.7	1.4
G. NPO (非営利団体)・NGO (非政府組織)	3.3	38.6	40.2	15.6	2.2
H. 宗教団体	1.0	6.3	27.8	63.6	1.3

一自己評価による社会関心度一

第25問 あなたは社会の動きに、どの程度関心がありますか。

- 1つだけ○をつけてください。
1. 非常に関心がある 17.3 %
2. ある程度関心がある 66.0
3. あまり関心がない 14.7
4. まったく関心がない 1.5
5. 無回答 0.5

一社会満足度一

- 第26問 それでは、あなたは現在の社会状況に、全体として満足していますか。それとも満足していませんか。
- 1. 満足している0.4 %
 - 2. どちらかといえば、満足している 18.8
 - 3. どちらかといえば、不満である 63.7
 - 4. 不満である 16.6
 - 5. 無回答0.5

一選挙権について一

- 第27問 選挙の投票についてのあなたのお考えは、次の2つのうち、どちらに近いでしょうか。
- 1. 投票は国民の義務である 47.2 %
 - 2. 投票は国民の権利である 51.9
 - 3. 無回答0.8

一棄権について一

- 第28問 選挙の投票を棄権するのは、良くないことだと思いますか。それとも、そうは思いませんか。
- 1. 良くないことだ 63.6 %
 - 2. そうは思わない 35.7
 - 3. 無回答0.7

一政治への態度一

- 第29問 あなたは、「政治は政治家や専門家にまかせておけばよい」と思いますか。それとも、そうは思いませんか。
- 1. 政治は政治家や専門家にまかせておけばよい 13.0 %
 - 2. そうは思わない 86.5
 - 3. 無回答0.5

一ボランティアの経験一

- 第30問 自分の本来の仕事とは別に、他人や社会のために、自分の時間や労力を自発的に提供する「ボランティア活動」についてお聞きします。あなたは、このような「ボランティア活動」を現在していますか。あるいは以前したことがありますか。
- 1. 現在している 11.0 %
 - 2. 過去にしたことがある 33.7
 - 3. まだしたことはないが、そのうちすると思う 25.9
 - 4. これまでにしたことはない、今後もしないと思う 28.9
 - 5. 無回答0.5

一寄付の経験 (MA) 一

- 第31問 あなたは、最近1年間に、募金活動に協力して寄付をしたことがありますか。次の中から、当てはまるものについて○をつけてください。
- 1. 街頭の募金活動に応じて 28.7 %
 - 2. 店頭・公共施設などの募金箱で 26.5
 - 3. 学校・自治体・職場を通じて 33.5
 - 4. 地域での募金活動を通じて 32.1
 - 5. 現金振込みによって3.8
 - 6. 電話をかけるや寄付できる仕組みを利用して7.0
 - 7. クレジットカードによって0.8
 - 8. ポイント制度を利用して3.0
 - 9. 電子マネーを利用して0.4
 - 10. ワンクリック方式で1.6
 - 11. お買い物募金・寄付つき商品を購入して 12.0
 - 12. カードやギフト券を購入して1.4
 - 13. チャリティやオークションで4.0
 - 14. その他1.3
 - 15. 最近1年間では、寄付をしたことはない 22.7
 - 16. 無回答0.6

一マスメディア効用比較一

第32問 話は変わりますが、「A. 信頼できる情報を得る」という点で、あなたが次の中でいちばん利用しているものに1つだけ○をつけてください。Aと同様に、B~Iにあげた事柄についても、いちばん利用しているものに1つだけ○をつけてください。

	1. ラジオ	2. テレビ	3. 新聞	4. 雑誌	5. 本	6. インターネット (メールは除く)	7. メール	8. 人との会話	9. この中にはない	10. 無回答
(%)										
A. 信頼できる情報を得る	2.6	40.7	31.6	0.6	3.3	10.0	0.3	4.4	5.3	1.2
B. 趣味に関することを調べる	0.3	7.2	5.3	14.4	17.0	44.5	0.5	5.7	3.0	2.1
C. 気になるニュースについてさらに詳しく知る	0.7	24.0	23.0	2.1	2.5	40.7	0.3	2.6	2.4	1.7
D. 仕事や生活に必要な情報を入手する	0.9	15.3	12.7	4.6	7.5	38.8	0.3	14.0	3.8	2.2
E. 自分の考えが人と違っていないか確認する	0.5	7.7	6.8	0.9	3.0	11.9	1.1	56.6	8.4	3.1
F. 世の中の出来事や動きがわかる	1.8	60.1	19.9	0.6	0.2	13.2	0.2	1.6	1.2	1.3
G. 人と共通の話題が得られる	1.1	47.5	7.0	1.7	1.0	8.7	1.0	27.5	2.4	2.0
H. ふだん表に出ない情報を知ることができる	2.6	12.0	9.9	8.5	6.5	35.7	1.1	15.8	5.8	2.2
I. 関心のない分野のことも知識が得られる	3.3	26.9	15.5	6.3	7.1	27.9	0.5	7.8	2.9	1.8

一ネットの利用頻度一

- 第33問 あなたはインターネットをどの程度利用していますか。パソコンや携帯電話など、使用している機器はどれでも構いません。また、メールでの利用は除いてお答えください。
- 1. ほとんど毎日 39.4 %
 - 2. 週に3・4日程度9.4
 - 3. 週に1・2日程度 11.0
 - 4. 月に1・2日程度5.9
 - 5. ほとんど利用しない9.7
 - 6. 使ったことがない 23.8
 - 7. 無回答0.8

一性一

第34問 あなたの性別をお答えください。(回答省略。集計には抽出時のデータを使用)

一生年一

第35問 あなたの生年をお答えください。(回答省略。集計には抽出時のデータを使用)

一居住年数一

- 第36問 あなたは、現在の場所に通算して何年くらいお住まいですか。当てはまるものに○をつけてください。
- 1. 5年未満 17.1 %
 - 2. 5年以上10年未満 11.4
 - 3. 10年以上15年未満 12.1
 - 4. 15年以上20年未満 10.7
 - 5. 20年以上25年未満 9.6
 - 6. 25年以上 38.9
 - 7. 無回答 0.3

一住居形態一

- 第37問 あなたのお住まいは、次の中のどれに当てはまりますか。
- 1. 持ち家・一戸建て（二世帯住宅を含む） 68.0 %
 - 2. 持ち家・マンションなどの集合住宅 9.3
 - 3. 持ち家・その他 3.6
 - 4. 賃貸住宅・一戸建て（二世帯住宅を含む） 3.0
 - 5. 賃貸住宅・マンションやアパートなどの集合住宅 13.9
 - 6. 賃貸住宅・その他 2.0
 - 7. 無回答 0.2

一ライフステージ一

- 第38問 次の中で、あなたに当てはまるものはどれでしょうか。
- 1. 結婚したことはない 22.8 %
 - 2. (既婚) 子どもはいない 6.6
 - 3. (既婚) いちばん年下の子どもが中学生以下 20.3
 - 4. (既婚) いちばん年下の子どもが中学生より大きい 37.9
 - 5. (離別・死別) 子どもはいない 1.6
 - 6. (離別・死別) いちばん年下の子どもが中学生以下 1.2
 - 7. (離別・死別) いちばん年下の子どもが中学生より大きい 7.5
 - 8. 無回答 2.1

一学歴一

- 第39問 あなたが最後に卒業された学校、または、現在在学している学校について、次の中から1つだけ選んでください。
- 1. (卒業) 中学校（旧制小学校、高等小学校） 14.5 %
 - 2. (卒業) 高等学校（旧制中学校、女学校） 40.5
 - 3. (卒業) 高等専門学校、短期大学（旧制高等学校） 19.1
 - 4. (卒業) 大学、大学院 18.3
 - 5. (在学中) 高等学校、高等専門学校（1～3年生） 4.1

- 6. (在学中) 高等専門学校（4・5年生）、短期大学、大学、大学院 2.1
- 7. その他 0.5
- 8. 無回答 0.7

一職業一

- 第40問 あなたの職業は次のように分けると、どれに当てはまりますか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。
- 1. 農林漁業者 3.0 %
 - 2. 自営業者 8.5
 - 3. 経営者 0.8
 - 4. 管理職 2.9
 - 5. 販売・サービス職 11.2
 - 6. 技能・作業職 13.0
 - 7. 事務・技術職 16.4
 - 8. 専門職、自由業 2.0
 - 9. 主婦 19.6
 - 10. 生徒・学生 6.9
 - 11. 無職 14.3
 - 12. その他 0.7
 - 13. 無回答 0.6

一職業（雇用形態）一

- [第40問で「4～7（勤めている）」の方に]
- 第41問 次のように分けると、あなたはどれに当てはまりますか。
- 1. 正規の職員または従業員 27.9 %
 - 2. パートまたはアルバイト 10.4
 - 3. 契約社員・嘱託 3.8
 - 4. 派遣社員 0.8
 - 5. その他 0.4
 - 6. 無回答 0.2
 - 7. 非該当
- [第40問で「1～3」「8～13」の人] 56.5

一世論調査への協力度一

- 第42問 このような世論調査に、あなたはどの程度協力したいお考えでしょうか。次の中から当てはまるものに1つ○をつけてください。
- 1. いつも協力したい 11.5 %
 - 2. できるだけ協力したい 55.0
 - 3. できれば協力したくない 23.6
 - 4. 今後は協力したくない 8.9
 - 5. 無回答 1.0

サンプル構成

全体	性		年 層											
	男性	女性	16～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上
2,627人	1,278	1,349	150	137	154	176	234	207	216	228	237	275	226	387
100.0%	48.6	51.4	5.7	5.2	5.9	6.7	8.9	7.9	8.2	8.7	9.0	10.5	8.6	14.7

全体	男の年層							女の年層						
	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
2,627人	76	139	189	191	231	264	188	74	152	221	232	234	237	199
100.0%	2.9	5.3	7.2	7.3	8.8	10.0	7.2	2.8	5.8	8.4	8.8	8.9	9.0	7.6

全体	都市規模					社会的関心					
	特別区と人口100万以上の市	人口30万以上の市	人口10万以上の市	人口5万以上の市町村	人口5万未満の市町村	スケール		テーマ		自己評価	
	低	高	低	高	低	高	低	高	低	高	
2,627人	514	558	656	420	479	422	2,205	180	2,447	438	2,189
100.0%	19.6	21.2	25.0	16.0	18.2	16.1	83.9	6.9	93.1	16.7	83.3